

東海エリアの需要を掘り起こせ

中部支部と共同で「JATA海外教養講座」開催

JATAアウトバウンド促進協議会とJATA中部支部は3月17日、名古屋市内で「JATA海外教養講座」を開催しました。

今回の講座は、旅の楽しさを発信する東海地域では最大級の旅のイベント「旅まつり名古屋」に併せて実施されました。今回は、中部国際空港からの直行便を利用して訪問可能な国や地域を対象にしました。対象地域のユニークな歴史や文化などをテーマに大学の先生を中心に講師を依頼し開催したところ、300人を超えるという盛況ぶりでした。

古代エジプト史専攻の駒澤大学文学部



名古屋工業大学の若山滋名誉教授による講演

歴史学科の大城道則教授は、ピラミッドを訪れたことのない初心者向けとエジプトに旅行したことがあるピラミッド体験者向けの2回に分けて講演し、その謎や魅力の紹介と最新技術で発見された新たな謎や学説についての解説を行いました。

異文化コミュニケーションと多言語情報提供などを研究分野としている金城学院大学国際情報学部の佐藤久美教授は、江戸時代末期から明治にかけて活躍し、日米和親条約の締結に尽力したジョン万次郎の米国における足跡を辿る一方、日本人にとりて最も身近なリゾート地の一つであるハワイについて、異文化交流などの視点からハワイの魅力を語っています。

カナダ観光局の半藤将代日本地区代表は、夏期に名古屋からの直行便が運航されるカナダの東部地域の魅力を、小説『赤毛のアン』を通じて紹介。カナダの冬の絶景として人気を集めているカナディアンロッキーとオーロラの美しさなどについても語りました。

建築家批評家としても知られる名古屋工業大学の若山滋名誉教授は、欧州を南北と東西に分けて、南欧と北欧の文化的な相違や特徴を説明したのに続き、東欧と西欧の多様性などについても解説しました。

オマーンへの視察旅行を実施

海外旅行推進委員会、JOTIC活動の二環で

JATA海外旅行推進委員会は2月23日から3月2日まで8日間にわたり、JATAアウトバウンド促進協議会（JOTIC）中近東アフリカ部会による活動の二環として、オマーンへの視察旅行を実施しました。

視察旅行には、JATA会員旅行会社とツアーオペレーターの関係者など10人が参加し、首都マスカットで開催された日本・オマーン国交樹立45周年記念事業である「オマーン・日本中小企業ビジネス協力フォーラム」での観光交流ワークショップに出席。ワークショップでは、オマーン観光省次官による挨拶に続き、観光省が選んだオマーン側の主要20社と1対1での商談会に臨みました。

さらに、一行は、マスカット市内の視察に加えて、砂丘ホテルで知られるバルカヤ、オマーンのグランドキャニオンと言われるジベルシエンをはじめ、マスカット近郊の観光地の実地視察も行いました。

オマーンは、中近東エリアでは数少ない外務省による危険情報レベルがゼロの親日的な国で、視察旅行の参加者らは「マスカット近郊エリアを含め、日本人旅行者にとつての観光素材となるコンテンツは十分にある」と評価しています。同時に、国や観光地の認

知度が低く、日本語ガイド不足などの課題もあることから、その解決に向けた取り組みが求められることとなります。

海外旅行推進委員会では、今後、視察旅行の参加メンバーによる現地報告などを内容とするセミナーの開催を予定しているほか、ツアーリズムEXPOジャパン（TEJ）への出展や駐日オマーン大使館などの協力を通じて、アウトバウンド促進協議会を中心に商品開発の取り組みなどをサポートしていく方針です。

オマーンでは、新国際空港が3月20日にオープンしたのに続き、3月21日からは「E-査証」も導入されて到着時の混雑も緩和されるなど、受入環境の改善も進んでおり、外国人旅行者の増加が期待されています。



オマーンへの視察旅行の参加者ら